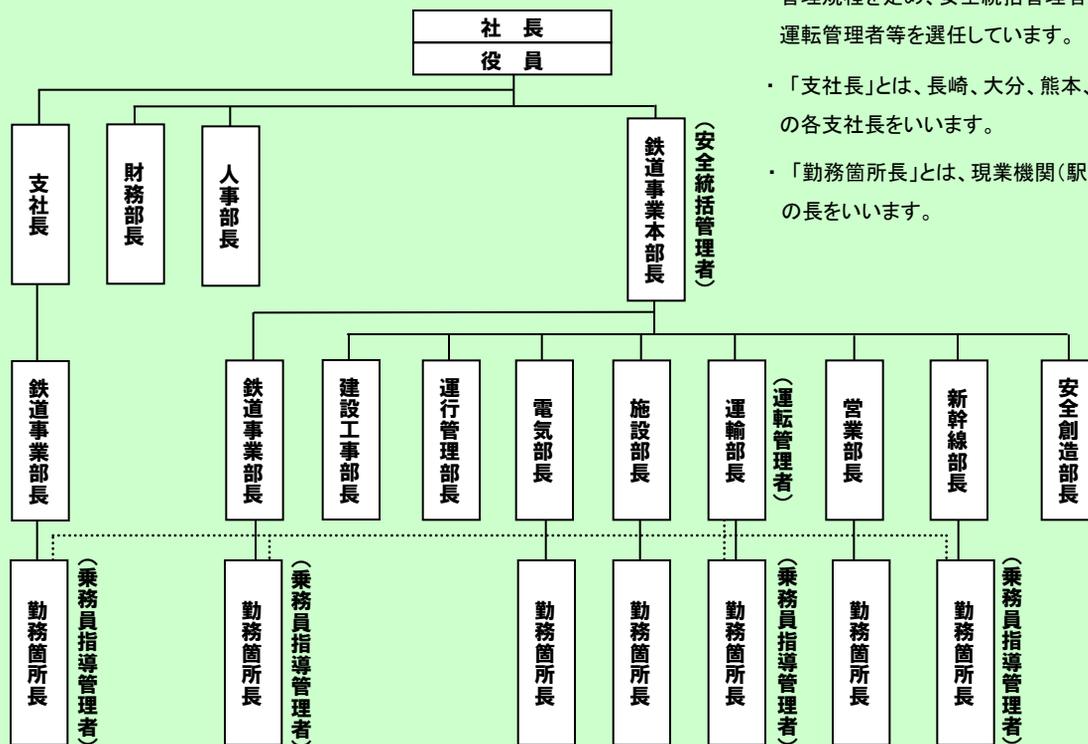


3-1 安全管理体制

経営トップの主体的関与の下に安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しています。これに基づき、社員の声を反映した業務運営、安全総点検の実施等により安全管理の強化に努めています。2018年度も引き続き安全マネジメントのPDCAサイクルを適切に機能させ、安全監査及び安全点検等の実施により社内の安全マネジメント体制のチェックを行い、輸送の安全の確保に取り組みました。

● 輸送の安全の確保に係る体制

◆安全管理体制図



- ・ 鉄道事業法第十八条の三に基づき安全管理規程を定め、安全統括管理者及び運転管理者等を選任しています。
- ・ 「支社長」とは、長崎、大分、熊本、鹿児島各支社長をいいます。
- ・ 「勤務箇所長」とは、現業機関(駅、区所等)の長をいいます。

● 安全管理体制に係る関係者の責務

社 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。 ・ 安全統括管理者がその職務を行う上での意見を尊重するとともに、必要により措置を講じる。
安全統括管理者 (鉄道事業本部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。 ・ 安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。
運転管理者 (運輸部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用、乗務員の育成及び資質の維持等を行う。 ・ 運転に関する業務について、関係部長等から必要な報告を求め、指示を行う。
乗務員指導管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運転管理者へ報告する。

3-2 安全性向上の取り組み

安全の確保のためには、社員一人ひとりが高い安全意識を持ち、安全について自由に意見を交換しあえる風通しのよい組織であることが大切です。そのために「安全創造運動」を2006年度から継続して展開し、安全風土の形成に努めています。

● 安全創造運動2018の展開

2018年度は、『それ、大丈夫?! これ、大丈夫?!』をスローガンに掲げ、「安全創造運動2018」を展開しました。

◆安全創造運動各種ツール

安全創造運動2018
それ、大丈夫?!
これ、大丈夫?!

安全創造運動2018
それ、大丈夫?!
これ、大丈夫?!

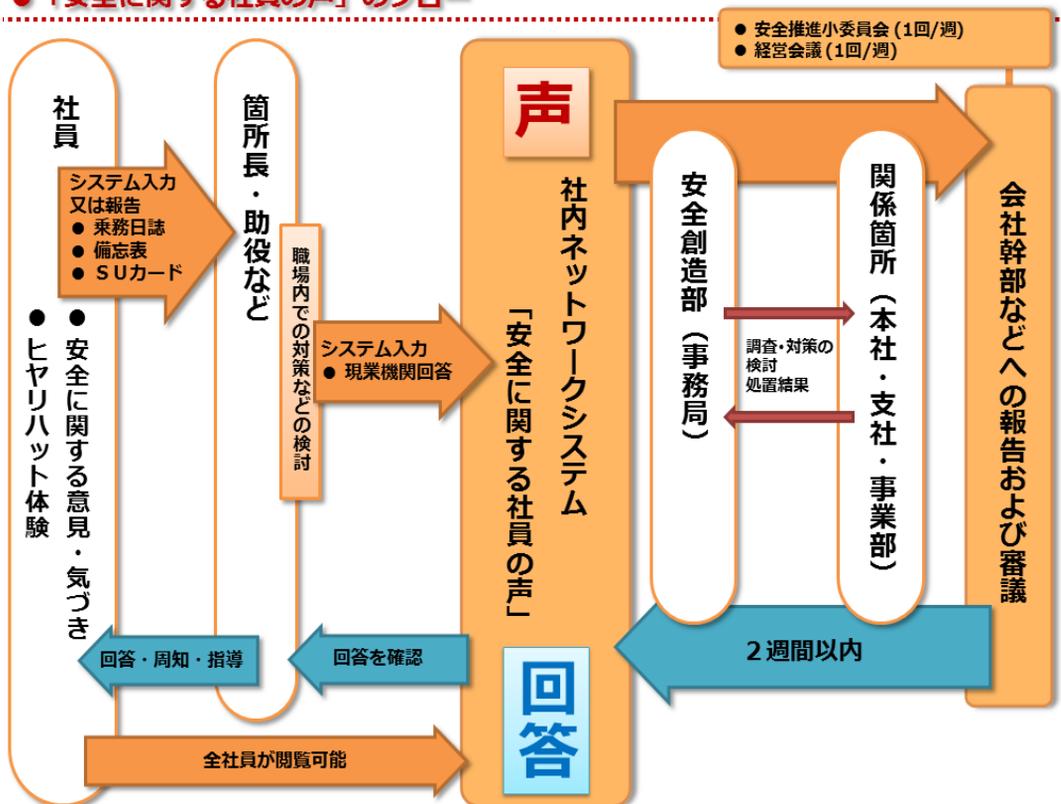
安全創造運動2018
それ、大丈夫?!
これ、大丈夫?!

[パンフレット] [ポスター] [ステッカー]

■「安全に関する社員の声」

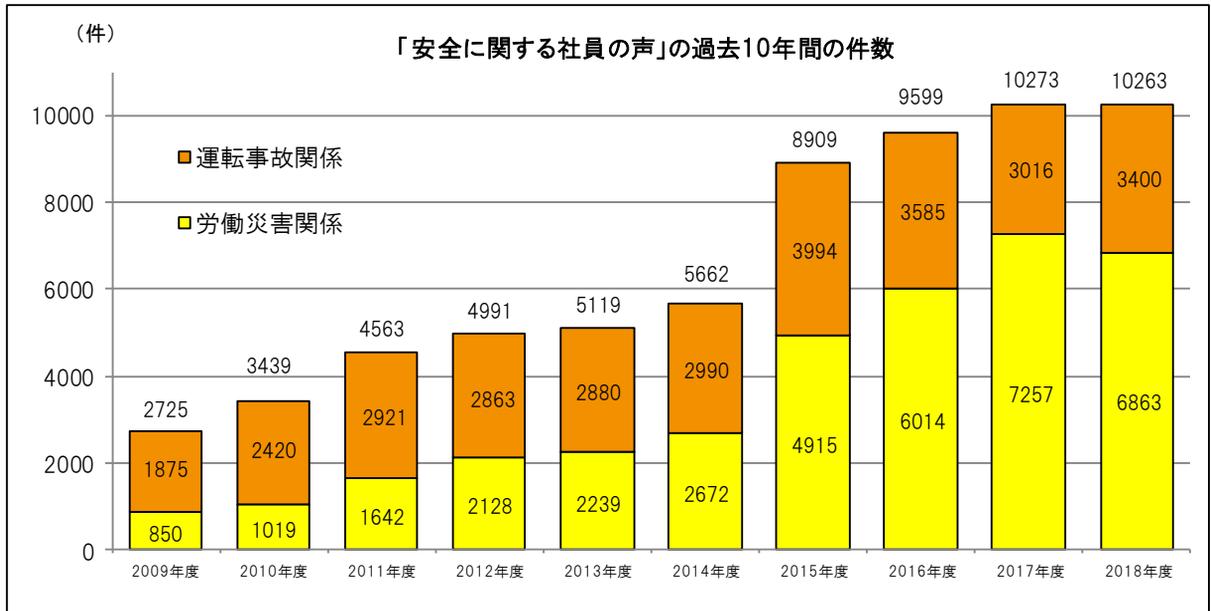
「安全に関する社員の声」は、社員の安全に関する「意見や気づき」及び「ヒヤリハット体験」を共有し、事故や危険の芽を未然に防止するためのシステムです。内容と対策を2週間以内に経営会議で報告し、その情報は社内ネットワークにより全社員に開示しています。

●「安全に関する社員の声」のフロー



■「安全に関する社員の声」の件数

2018年度に寄せられた意見・気づきやヒヤリハット体験は、10,263件でした。これらのうち、意見や気づきが2,592件、ヒヤリハット体験は7,671件でした。



■「安全に関する社員の声」に対する表彰実績

「安全に関する社員の声」をより一層促進する目的で、毎年各種表彰を実施しています。

◆ 安全創造大賞

年間を通じて、多くの声に対し迅速に改善を図り、鋭い気づきや優れた意見の声を積極的に出し、安全創造運動の推進に貢献した職場や安全をつくるために顕著な功績をおさめた社員に対する表彰です。

2018年度は、個人の部で2名、職場の部は1職場を表彰しました。



◆ 安全創造賞

安全に関する高い問題意識がうかがわれ、安全に関して優れた意見等であると認められた声に対する表彰です。

2018年度は6名を表彰しました。



◆ ヒヤリハット推進賞

事故等の未然防止や安定した輸送の確保に大きく貢献した「意見・気づき」の声に対する表彰です。

2018年度は、121名を表彰しました。



◆ ヒヤリハットオープン賞

自らのヒヤリハット体験を積極的に声に出すことで、事故等の未然防止や安定した輸送の安全確保、労働災害の防止に大きく貢献した声に対する表彰です。

2018年度は、15名を表彰しました。



■設備等の改善事例

2018年度に寄せられた意見・気づきやヒヤリハット体験のうち、対策が必要な声は664件あり、これらについて対策の実施又は対策実施の方針を決定しました。

事例

● 声の内容

駅の事務室に「列車非常停止用ボタン」が、PC機器上部の高さ約106cmの位置にあります。もしホーム転落などの非常事態が発生した場合に、ボタンが高い位置にあることから、すぐにボタンを押して、列車を停止させる処置を全社員が出来ないことが考えられます。ボタンの位置を見直し、どの社員でも非常事態にすぐに対応できるようにしていただきたいです。

● 対策

押しボタンの位置と向きを変更し、全社員がすぐに列車非常停止が行うことができるように改善を行いました。



■ヒヤリハット体験の改善事例

2018年度に寄せられた10,263件の声のうち、ヒヤリハット体験は7,671件でした。こうしたヒヤリハット体験のうち、一例を紹介します。

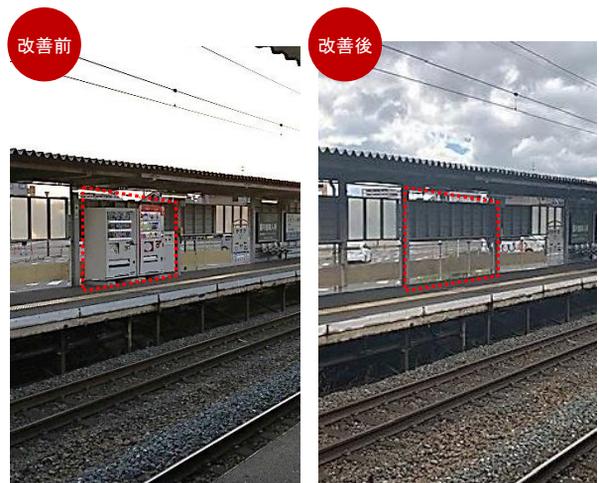
事例

● 声の内容

鹿児島本線 春日駅の上りホームに自動販売機が設置されていますが、自動販売機がお客さまの通行を妨げ、通行スペースが狭くなりお客さまが列車に接近することがありヒヤリとしました。触車事故に繋がる恐れも考えられるため移設などの検討をお願いします。

● 対策

ホームに設置している自動販売機は、お客さまの安全を考慮し撤去を行いました。



■安全創造運動の記録

2018年度に展開された安全への取り組みを「安全創造運動の記録（2018.4-2019.3）」としてまとめました。「安全創造運動の記録」は、社内のネットワーク上に掲載しており、全社員が閲覧することができます。

■安全サミット

2018年10月10日、第7回「安全サミット in 博多」を開催し、鉄道、航空、製造業など計39社にご参加いただきました。代表して4社さまに現場での安全の取り組みについてご紹介していただき、その後の意見交換でも様々な意見が交わされ、各社における安全に関する課題や工夫など情報共有を図る有意義な機会となりました。



■安全創造取組発表会全社大会

2018年10月11日、「安全創造取組発表会全社大会」を開催しました。「安全」は鉄道に限ったことではなく、全ての事業における最大の使命であるとの思いから、鉄道事業以外の部門も参加し本社直轄及び各支社大会から選ばれたJR九州8職場とグループ会社3職場が、各職場で行っている安全をつくるための取り組みについて発表を行いました。

最優秀賞

宮崎乗務センター 「夜間における津波避難訓練」

大規模の地震が発生した際の避難誘導訓練を、運転士が主体となり九州では初となる夜間での訓練を実施し、その中で夜間時の避難において様々な課題を発見し、スマートデバイス等を活用した避難方法などを考え、夜間でもスムーズな避難誘導を研究し周知したことで、職場内の乗務員の異常時対応能力向上に大きく繋げた取組みを発表しました。

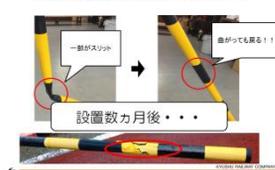


会場審査特別賞

博多信号通信区 「もっと踏切！ もっと安全！」

踏切の遮断桿折損やトリコの防止に向け、これまでの活動以外にさらにできることがないか職場内で考え、遮断桿折損やトリコの減少に繋げた取組みを発表しました。

先端に折れない遮断かんを導入しよう



会場審査特別賞

九州電気システム株式会社 安全推進部 「協力会社と築く安全文化」

安全指導担当による協力会社への指導や合同での訓練・教育を通して、事故や労働災害の防止に繋がった取組みを、寸劇を交えながら発表しました。



■安全創造講演会

2018年8月2日、近年注目されているAI技術について日本大学 理工学部 教授 高橋 聖様をお招きし「新技術で安全を創造する」と題して、人工知能の成り立ちから、出来ることは何なのか、今後我々が生かすべきものは何なのかのご講演して頂きました。

● 現場とのコミュニケーション

現場と本社の各部門との間でのコミュニケーションを強化し、安全に関する課題や情報の共有化を図るため、意見交換会等の様々な取り組みを行っています。

■ 社長との意見交換会

毎年、社長と現場との意見交換会を開催しています。各職場における安全に関する日頃の取り組みや、それらを推進する上での問題点などが直接社長に伝えられ、現場の実情や課題等について共有化を図っています。



■ 縦☆横ミーティング

鉄道事業本部長（安全統括管理者）と現場とで日頃から鉄道の安全について思っていることを気楽に話し合い、聞きあう意見交換会です。コミュニケーションを活発に行い、風通しの良い職場を作るため、「気楽にまじめな話をする」をモットーに開催しています。



■ SU(セーフティ・アップ)ミーティング

安全推進プロジェクト及び技術指導プロジェクトによる現場巡回の結果報告や事故防止の取り組みをはじめとした、安全に関する情報の共有化を図るため、社長や鉄道事業本部長（安全統括管理者）及び各主管部長、現場長等が出席して意見交換を行っています。



■ 安全推進プロジェクト・技術指導プロジェクトの現場巡回等

本社の各系統の部署では、安全推進プロジェクト又は技術指導プロジェクトを配置して、各プロジェクト社員による現場巡回や勉強会、意見交換会等により、本社の安全に対する方針を共有しています。



[技術指導プロジェクトを交えた勉強会]



[安全推進プロジェクトを交えた勉強会]



[安全推進プロジェクトとの意見交換会]

● 安全推進委員会の開催

■ 安全推進委員会

本社では、鉄道運転事故や輸送障害及び労働災害等の未然防止や再発防止に関する対策の審議や、安全に関する情報の共有を目的として「全社安全推進委員会」が毎月開催されています。ここで決議された対策や情報等については、各支社や各部門毎に開催される安全推進委員会等において展開されます。また、これらの委員会には、JR九州グループ会社の安全担当者も出席しており、決議された対策や安全に関する情報はグループ会社内でも展開され、JR九州グループ一体となって安全の確保に取り組んでいます。



[全社安全推進委員会]



[支社安全推進委員会]

● JR九州グループ一体となった取り組み

■ 安全懇話会

JR九州グループ（鉄道関係6社）の安全担当の責任者とともに、関係社員による取扱い誤りや労働災害について、その発生状況や安全対策等の情報共有を図るなどして、JR九州グループ一体となった取り組みを展開しています。また、他の企業様を訪問させていただき、施設見学や安全関係のご担当者との意見交換等を行い、安全への取り組みの参考にさせていただいています。



[安全懇話会]

■ 安全大会

JR九州グループ会社及び協力会社各社と一層の連携を図り、鉄道における輸送の安全の確保と安定輸送、インシデントや四大労働災害などの危険な事象・事故等の撲滅に一丸となって取り組むため、毎年「安全大会」を開催しています。2018年度は5月22日に開催し、総勢87社から各社を代表して171名のみなさまにご出席いただきました。



[開会挨拶]



[九鉄工業(株)様による安全宣言]



[特別講演]